



ふれあいひろば

新潟市民病院
広報委員会



[患者とともにある全人的医療]

総合周産期母子医療センター長就任のご挨拶

新生児内科 佐藤 尚

今年度から総合周産期母子医療センター長を務めさせていただくことになりました。まだ未熟ではありますが、精いっぱい務めさせていただきます。

当センターは、1987年に、新潟県で初の新生児医療センターとして誕生し、2007年には総合周産期母子医療センターの認可を受けました。総合周産期母子医療センターとは、特にハイリスクの妊婦さん、早産や何らかの疾患を持った赤ちゃんを治療する施設です。当施設の分娩件数は年間約450件前後あり、そのうち早産は約35%前後、赤ちゃんは年間約200-250人の入院を受け入れています。新潟県には総合周産期母子医療センターが3施設ありますが、当院はその中でも規模としては最大であり、県内の周産期医療において重要な役割を担っているものと自負しています。

また、当センターは「赤ちゃんにやさしい病院」(baby friendly hospital)に認定されています。これは、主に母乳育児を推進することを通じて、赤ちゃんとお母さん、更にはお父さんや兄弟も含めた良い家族関係を育むための取り組みを行っていることと認められた施設に対して、世界保健機構

(WHO)と国連児童基金(ユニセフ)から与えられる認定です。

当初は、いわゆる「正常新生児」が対象で、NICU(集中的な治療を必要とする赤ちゃんを診療する部門)に入院するような赤ちゃんは、少なくとも、認定基準としては考慮されていませんでした。しかし、そのような赤ちゃんにこそ「やさしさ」が必要です。2022年に日本で初めて6施設が「赤ちゃんにやさしいNICU」の認定を受けましたが、当NICUもその一つとして認定されました。

従来、周産期医療は、救命や病気の治療が最優先されてきました。これは大事な使命であることはいうまでもありませんが、このように、家族や赤ちゃんに対する「やさしさ」が注目されるようになってきたことは素晴らしいことだと考えています。

当センターの役割を自覚し、地域の皆様に貢献できるようにスタッフ一同努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



検査室の精度保証の取り組み (ISO 15189について)

臨床検査科 渡辺 二美

①「精度管理」とは何でしょう？

臨床検査を行う施設では、患者さんの検体を採取してから結果報告まで様々な手順や管理条件を設定し、検査機器のメンテナンスや検査技術の研鑽などを行っています。このような「測定結果を正確なものにするため管理すること」を「精度管理」といいます。

② ISO 15189について

ISO 15189は品質マネジメントシステム（検査品質に関して組織を指揮し管理するシステム：QMS）の構築を行い、正確な検査結果を提供していることを認める国際規格です。

臨床検査科は2020年12月にこの認定を取得しました。認定の有効期間は4年で、その期間内に2回の定期サーベイランス審査が実施され、QMSや検査技術の維持管理状況が確認されます。現在国内では約300施設が認定を取得しています。

③ ISO 15189 : 2012の更新

当院では、今年5月に認定を更新する審査を初めて受審しました。同時に病理検査科も認定を取得する拡大審査もあり、1年以上前から準備を行いました。

審査は2日間にわたって7名の審査員が各部門を回り、書類審査、面接、実技試験、筆記試験等を行い審査されました。

審査員から「QMSをよく理解して運用している。各スタッフが高い技術力を持って日々の業務に従事しており、全体的に優れた検査室であることが伺えた。」という講評をいただきました。

今後軽微な不適合に対して是正を行い、認定更新される見込みです。

④ ISO 15189 : 2022に向けて

2022年に、ISO 15189の規格が10年ぶりに改定されました。今回、更新審査を終えほっとしたのも束の間、来年は、新しい規格に沿った移行審査を期間内に受審しなければいけません。

新しい規格は、これまでの5章構成から8章構成に変更され、リスクマネジメントに重点を置いた内容になっており、リスク管理の仕組みの充実が求められています。これまで運用してきた手順書を短時間で作り直し、新しい規格での活動を行う必要があります。非常にハードなスケジュールですが、スタッフ全員で取り組みたいと思います。

臨床検査の結果に安心と信頼を



当院の臨床検査室はISO 15189の認定を取得しています

ISO 15189は臨床検査室が品質マネジメントシステムをもち、臨床検査の種類に応じた技術能力をもって健全に検査業務を行うことを求める国際規格です。臨床検査室認定の取得により、国際的に認められたしくみにもとぎ運営され、検査結果に対する信頼性が向上します。私たちは、これからもより一層の品質管理と技能向上および患者さまへのサービス向上に努めてまいります。



<http://www.jab.or.jp>

ISO 15189の詳細はこちらをご覧ください

認定された臨床検査室 | 検査



10年目に『脳卒中相談窓口』が誕生しました

私たち地域医療室は、病院1階の受付10番、患者総合支援センター「スワンプラザ」の中にあります。患者総合支援センター「スワンプラザ」は、地域の医療機関と協力し、患者さんが安心して入院生活を送り、不安なく退院できるように支援することを目的として、平成27年4月1日に開設され、今年で10年目の春を迎えました。

地域医療室は、患者さんが地域のかかりつけ医から当院での治療が望ましいとされた場合に受診予約などの窓口となる「病診連携」、当院を受診後に手術が必要になった場合に手術前の説明の対応を行う「入院支援」、病気やケガをしたことにより経済的・社会的な不安が生じた場合の相談に対応する「医療福祉相談」、入院後に退院を見据えて不安がある場合に介護保険の利用やリハビリ転院などに対応する「退院支援」の部署があります。

いずれも、患者さんやご家族が入院前

患者総合支援センター「スワンプラザ」 地域医療室 伊部 奈穂子

から入院中、そして退院の際に再び地域に戻られるにあたり、不安なくお過ごし頂くために地域の関係機関と連携しながら対応しております。

今年の4月1日からは地域医療室の中に、『脳卒中相談窓口』を開設致しました。当院の『脳卒中相談窓口』では、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）で入院中の方 及び 外来通院中の方やご家族からの様々なご相談を受けております。ご相談の希望がある方は以下をご確認の上、手順に沿って事前予約下さい。当院ホームページ、トップページ下部の各種相談窓口より脳卒中相談窓口へ進んで頂くと、日本脳卒中学会・日本脳卒中協会作成の動画も掲載しております。脳卒中の経過によって合わせてご覧頂き、療養の一助となれば幸いです。



「脳卒中相談窓口」ホームページのQRコードになります

ご利用方法	① 担当の医師・看護師にお申し出いただき事前予約 ② 電話での予約（025-281-5151：内線1067）
相談時間	毎週 金曜日 午後2時から3時
相談場所	患者総合支援センター「スワンプラザ」相談室（受付10番）
相談員	医療福祉相談員（相談内容に応じて 患者総合支援センター看護師 や 脳卒中科医師）
その他	相談内容については秘密を厳守します。患者さんの支援に必要な場合は、同意を頂いた上で、うかがった内容の一部を医療者間で共有したり、他の関係機関にお知らせする場合があります。

登録医のご紹介

～おがわ内科・消化器内科クリニック～

施設名：おがわ内科・消化器内科クリニック

診療科目：内科・消化器内科

住 所：〒950-0871

新潟市東区山木戸4丁目1-44

電話番号：025-282-5257

診療時間：

月・火・木・金 午前 9:00～12:30

午後 15:00～18:00

水・土 午前 9:00～13:00

休診日：日曜日・祝日

URL： <https://ogawa-naika-clinic.jp/>

新潟市東区山木戸に、内科・消化器内科を専門として2024年5月1日に開院いたしました、おがわ内科・消化器内科クリニック院長の小川光平です。

新潟市民病院には2013年に後期研修医として勤務しており、内科・消化器内科として多くの患者様の診察や治療を経験させていただきました。また市民病院の先生方や医療スタッフの方々にも手厚くご指導いただき、医師としての土台を作ってもらい本当に感謝しております。

当クリニックでは細径内視鏡を用いることで、患者様の苦痛を最小限にするカメラ検査を心掛けております。胃カメラでは、経口（口から）と経鼻（鼻から）の2つから患者様のご希望に合わせてお好きな方をお選びいただけます。また大腸カメラ検査では、日帰りポリープ切除も可能です。

また高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症などの生活習慣病をはじめ、発熱・かぜ・インフルエンザ・頭痛・めまい・息苦しさなど様々な症状に対して内科診療を行っております。

地域の皆様の「病気の予防、早期発見、治療、そして健康維持」のお手伝いができるように努めたいと思っております。納得と安心いただけるクリニックを目指して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



当院のホームページにも、バックナンバーを掲載しています。

新潟市民病院 ふれあいひろば

検索

発行元：新潟市民病院 広報委員会

新潟市中央区鐘木463番地7 Tel 025-281-5151